

週寫眞  
報眞

情報局編輯

六月十日・第二廿四號・十七

昭和十七年六月十日



一をもつて百千に當るのが日本人のやりかただ

頭數だけ並べて仕事をしようなんて、それは米英式だ

量よりも質、より磨かれた技術、生産の方法にも新工夫を

自分で出来る仕事は他人にまかせるな

遊んではあられないぞ

舞臺は廣くなつたのだ、もつとく、人が要るのだ



高松宮殿下御渡満

満洲國皇帝陛下と  
固き御握手を交させ給ふ

盟邦満洲國建國十周年に當り、満洲國皇帝陛下に對し御祝意を表せられるため、長き遊りより御差遣の高松宮殿下には、御禮嫌しく、五月二十八日夕刻、新京へ御到着、莊重な國歌『君が代』の奏せられる中を、南方戦線御視察の御賜灼け色も御凛々しく降りたたせ給ひ、御出迎への皇帝陛下と固き御握手を交させられ親しく御言葉を重ねさせられました。わが皇室と満洲國皇室との御親交のほど拜するに畏き極みでありました。

かくて御入滿第一夜は、四千三百万満洲國民の歡喜に溢れる中を安らかにお過ごし遊されましたが、翌二十九日には皇帝陛下と公式に御會見、親しく御祝詞を述べさせられた晴れの御使命を果させ給うたのであります。

御寫眞は新京驛頭、固き御握手を交させられる高松御差遣宮殿下と満洲國皇帝陛下



↑ 北部ビルマ戦線を一路北へ、輸糧とちつとくわが輸送部隊の戦牛車  
 ↓ つい少し前まで將軍へ輸血の品を満載したトラックが走つてゐたビルマ・ルートに、いま日の丸がさしたわが快進部隊が追撃する



相違点であることを知るよりも、いよいよ大東亞戦争一掃も抜き、新政府組織の決意を固めなければならぬ

五月一日、雲南マンダレーを占領したわがビルマ方面作戦部隊は以來總追撃戦に移り、各方面とも敗走する敵を急追してこれを國境以内へ追ひ、徹底的打撃を與へたが、追撃部隊の一部は復走する敵を追つてビルマ、雲南國境線を突破、龍陵、騰越等の要衝を相次いで占領、一部はビルマ・ルートを急追して、嘉通嶺對岸に達し、更に前進をつづけてゐると報せられてゐる。かくてかつての接納路は、いまわが對馬路とかはり、南方各地の作戦を終了したわが部隊は何時でも昆明、重慶への進撃を行ひ得る態勢にあるが、このさし迫つた情勢の前に重慶の混戦はその極に達し、重慶政権の内部にも抗戦の前途を悲觀した空氣はいよいよ濃厚となるに至つた。だが、蔣の米英依存はすでに輻射射に入つてゐる。おそらく今後といへども重慶は最後の勝利なるものになほも密に抱いて悲壯な決意で抗戦を繼續するものと思はれる。

# 重慶の腹背を衝



ビルマから  
 浙東から



↑ 越支國境を敗走する敵の退路を絶つて、任射を浴びせかけるわが〇〇砲

↓ 越支國境線内に殘敵を撃滅すべく、猛烈敵陣地に迫るわが歩兵部隊



# 重慶の腹背を衝く

ビルマから

★ ★ ★

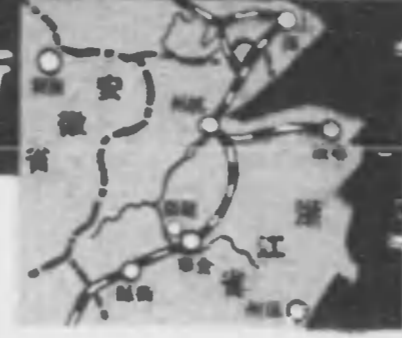


ラングーンといへば米の都といつていい。位ビルマのお米がここに集まる。わが現地主産部隊の武備部隊は内地へ少しも多くお米を造らうと大奮の活動をつづけてゐるが、米を造れぬは何より米の心から協力してくれるのは何よりたのしい。黄鵠と強行軍と、そして激戦に破れ汚れた軍服を兵隊が無骨な男手で洗濯し、繕つてゐるのを見ればビルマ人たちは、まあ、お氣の毒に、そんな仕事は私たちにさせて下さい、と涙まに人前に出たことのない良家の婦人まで軍仕班に加はつて日本の兵隊を喜ばせてゐる。

ビルマ人の協力ぶりはこゝにも見られる。日が廻るやうな英天下に大きい石のローラを引つづつて飛行機を作る仕事は樂ではないが、人夫をかり集めに廻るまでもなく方々から自發的な志願者があらはれて兵隊を驚かせる。



## 重慶の腹背を衝く



浙東から

重慶軍をくつとらんで、五月十五日拂曉を期して〇〇方面から浙東地区の敵第三戦区司令部の部下警備第九軍及び第八十八軍約九ヶ師十万余の敵に對して一齊に猛攻を開始し、十九日以来、敗走中の露軍を東陽江河畔に追撃、二十八日、要衝金華を完全に攻略した。

大東亞戦争勃發とともに重要政權は米英の走狗ぶりを露揮し、米英の對日戦勝に便乗してひそかに勝利を夢みてゐたが、期待に反して米英は東亞において大敗北を喫したその上に、命とたのんだビルマ・ルートを開かれ、突然に孤立無援の窮地に陥つたのであつた。

このときにあつて中支における敵策謀の本據、浙東に展開されたわが猛襲に重慶側の驚きぶりはさきごと映せられる。まづろはぬ重慶軍を徹底的に撃滅するまで支を攻めぬ支那派連軍が南方作戦に呼應していよ／＼大戦果をあげるであらうことは今から期待される。

敵は敵ヶ所から機銃の猛射を浴びせてきた。機銃をこらしめたわが部隊の兵隊たちは舟艇から東陽江南岸へバツとび移つた。



撮影 同盟通信社及び日本映画社

東陽江の流れを潤つて舟艇部隊は野を過ぎ部隊を運んで進んでゆく



一つの村、一つの町と相次いで攻め、戦勝の音男ましく浙東の野を南へ南へと追撃の手をゆるめぬ





昭南社と昭南社



大東亞戦争日誌

五月二十六日 開戦以来五月二十日までに判明せる帝國海軍の綜合戦果並びに我が方の損害概表

艦名	種別	戦果	損傷	沈没	捕虜	その他
第一艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第十艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第十一艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第十二艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第十三艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第十四艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第十五艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第十六艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第十七艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第十八艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第十九艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二十艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二十一艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二十二艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二十三艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二十四艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二十五艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二十六艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二十七艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二十八艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第二十九艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三十艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三十一艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三十二艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三十三艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三十四艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三十五艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三十六艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三十七艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三十八艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第三十九艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四十艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四十一艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四十二艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四十三艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四十四艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四十五艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四十六艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四十七艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四十八艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第四十九艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五十艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五十一艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五十二艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五十三艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五十四艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五十五艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五十六艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五十七艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五十八艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第五十九艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六十艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六十一艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六十二艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六十三艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六十四艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六十五艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六十六艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六十七艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六十八艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第六十九艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七十艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七十一艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七十二艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七十三艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七十四艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七十五艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七十六艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七十七艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七十八艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第七十九艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八十艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八十一艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八十二艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八十三艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八十四艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八十五艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八十六艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八十七艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八十八艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第八十九艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九十艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九十一艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九十二艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九十三艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九十四艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九十五艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九十六艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九十七艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九十八艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第九十九艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	
第一百艦隊	戦艦	1隻	0隻	0隻	0名	

先

日私は英人俘虜の手記を見た。その一節に、神話を焦だたせる姿なき部隊といふ魅力的な一語が目についた。

姿なき部隊といへば雲の上から或ひは八千メートル以上の超高空から爆弾を落す姿なき爆撃隊のことかと思つて讀み続けるとさうではない。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。



姿なき部隊

佐少

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。

「日本兵は夜になると、必ず私達の身邊に迫つた。スリムリバーの戦跡の後は、皆太陽が水平線に姿をかくすや否や迷走を始めた。私達は夕食を明る四時頃食べるやうになつた。それは初めから夜の恐怖感を感じるためであつたと書いてある。



# 陸軍部隊

——てに地基

「今日は五月節だぞ、遅い食事に舌鼓をたたきながら、喉の痛みを口々に勇士の連中が、喉に幼い日の様々な思い出を去来する。」

「部長長、これは少し大きいですね、でも、ごめんなさい、今日の日は、五月節の日に、幼い日の思い出を口々に、喉の痛みを口々に、喉に幼い日の様々な思い出を去来する。」

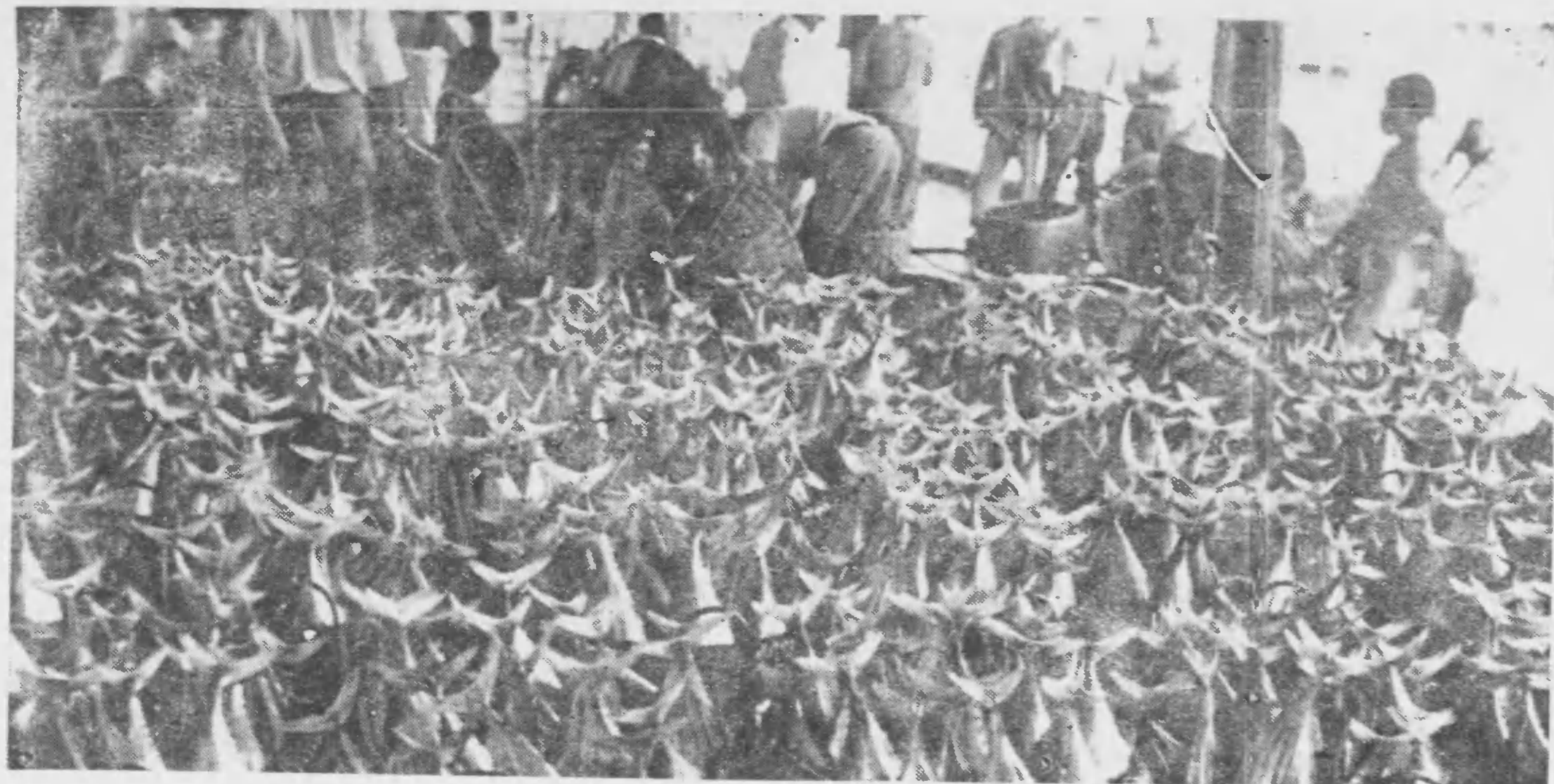
「今日の日は五月節だぞ、遅い食事に舌鼓をたたきながら、喉の痛みを口々に勇士の連中が、喉に幼い日の様々な思い出を去来する。」

# 五目飯と敵

〇〇方南

「今日の日は五月節だぞ、遅い食事に舌鼓をたたきながら、喉の痛みを口々に勇士の連中が、喉に幼い日の様々な思い出を去来する。」



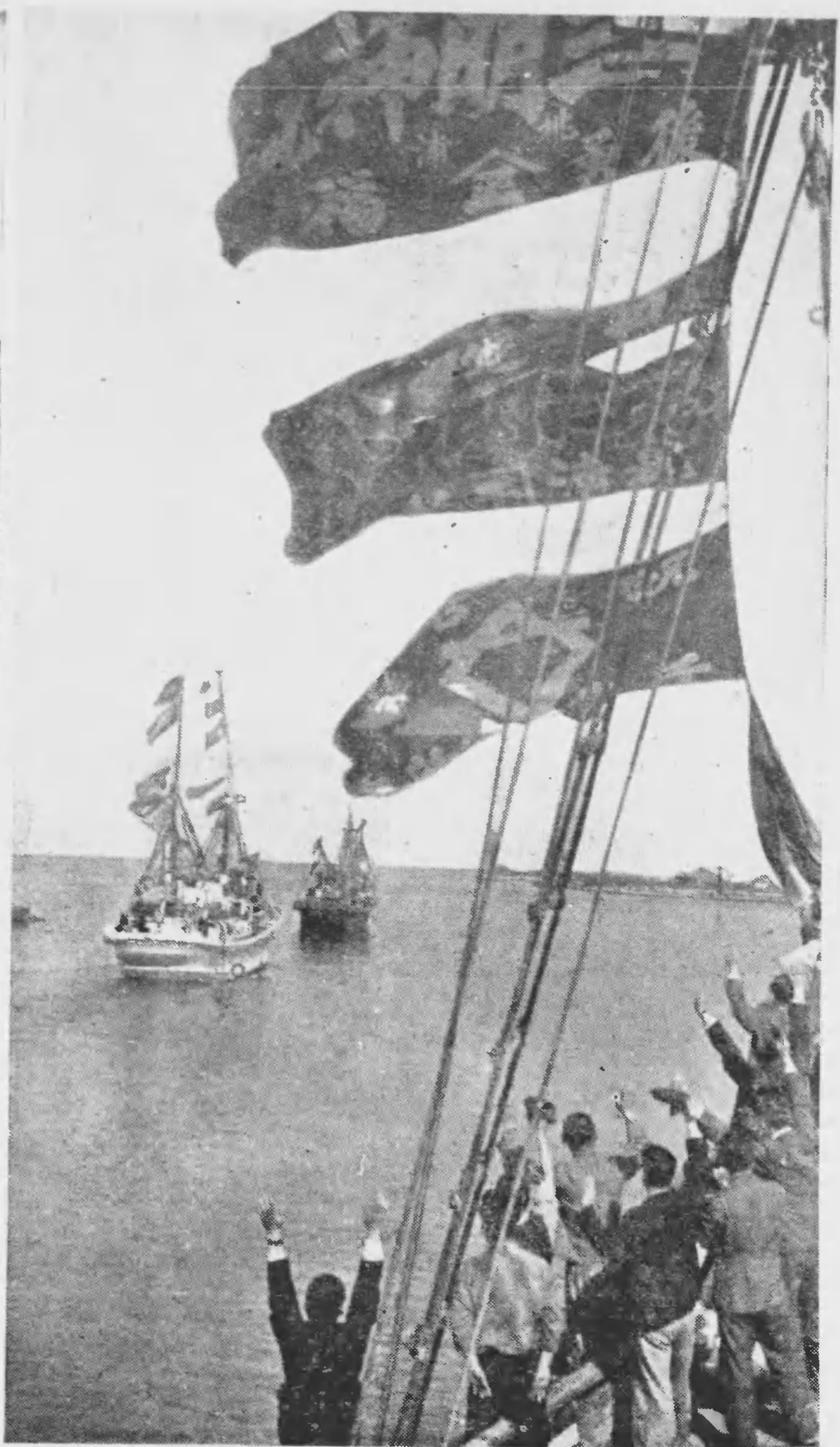


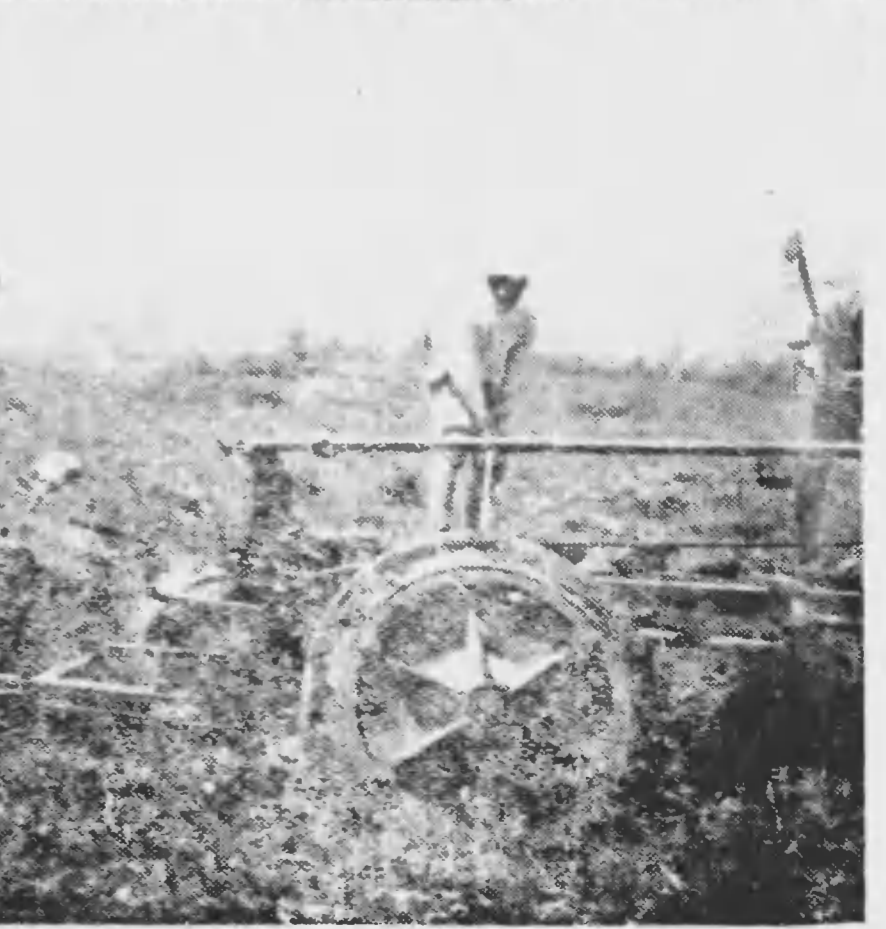
# 特別配給の重油 獲得の初歩

⇒ 英米の艦におくられて、沿るやうに船隊は出てゆく  
船団の乗組員は氏神様の社頭に大漁を祈り、増産の敢闘を誓った。敢てに垂れた頭の中には早くも黒潮に群る鯨の群を描かれてゐるのだ

目に青葉といへばいや、初歩と云ふのは気のすまない季節を運んで、昨年までは高い代用燃料を使つて、不利な条件を克服して食糧増産に敢闘してきたこの漁港の巨大なオイルタンクに今年も満々と油が満たされた。母港を離れて二月、三月と大洋の真只中に漁撈を続けてゆく海洋漁業にとって、無くてはならない油が特別配給になつたのである。大事な油だ、無駄にはできない。最小の量で最大の戦果をあげようとする案が立てられた。そして組織されたのが食糧増産船隊である。これまで個々に魚群を探してゐたのを、一隻の探検船にまかせ、漁獲には全部であつたればこれまでもよりつうつと無駄をばかすに、能率も上げることが出来るのだ。いま黒潮の洋上に艦を求めて、この船隊は食糧増産の戦ひをつよけてゐる

⇒ 英米の艦におくられて、沿るやうに船隊は出てゆく





# 地か 歩町万五

發開地農木苗縣阜岐  
ふ訪を所業事團營

農地開墾、苗圃、これ何でせう。それはこれまで忘れぬにまかせた土地を開墾して、たとへば握の米や麦でも、およそ大地の恵む食糧はできるだけこれを享けて、長期戦下の食糧を確保しようといふ目

表に、時を過して、この間に夕食の支度が出来る。それが済めば九時の消燈まで報國隊員に自由の時







# 大御稜威を謝し奉る

海軍陸戦隊 五月二十七日  
海軍記念日

大東亞戦争下に第三十七回の海軍記念日を迎へ三十七ヶ年の四季を繰りかへたに立ち立てられたわが無敵海軍の勳は煌然と輝く  
眞珠灣奇襲攻撃に、ジャヴァ沖に、將また珊瑚海海戦に東亞英蘭聯合國海軍勢力は滅びされ、いまや大東亞海はわが内海に、太平洋、インド洋の制海權全

くわが手にあるとき、この日、横濱賀茂守府より派遣の武勳に輝く海軍陸戦隊は歩武堂々と歡呼に沸く帝都を行進した  
宮城を拜し、凱と吹奏される「君が代」に眼がし、熱く捧げ舞する海軍陸戦隊男七

## 蠢動の機をうかゞふ残存米海軍主力

米海軍による撃沈、大中戦を除く

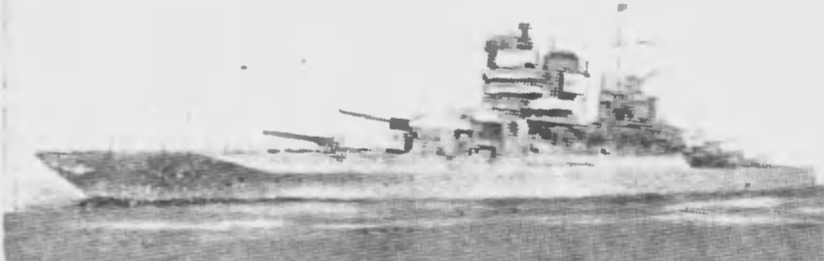
### 戦艦



ワシントン 排水量 35,000トン 速力 28ノット  
(ワシントン型) 備砲 16インチ9門 竣工 1941年



アイダーホ 排水量 33,400トン 速力 21.5ノット  
(ニューメキシコ型) 備砲 14インチ12門 改装 1934年



ニューメキシコ 排水量 33,400トン 速力 21.5ノット  
(ニューメキシコ型) 備砲 14インチ12門 改装 1933年



ミシシッピイ 排水量 33,400トン 速力 21.5ノット  
(ニューメキシコ型) 備砲 14インチ12門 改装 1933年



テキサス 排水量 27,000トン 速力 21ノット  
(テキサス型) 備砲 14インチ10門 改装 1927年



ニューヨーク 排水量 27,000トン 速力 21ノット  
(テキサス型) 備砲 14インチ10門 改装 1927年



アーカンサス 排水量 26,100トン 速力 20.5ノット  
(アーカンサス型) 備砲 12インチ12門 改装 1926年

### 航空母艦



ホーネット 排水量 19,900トン 速力 34ノット  
搭載機数 80 竣工 1942年



エンタープライズ 排水量 19,900トン 速力 34ノット  
搭載機数 81-100 竣工 1938年



レンチャー 排水量 14,500トン 速力 29.5ノット  
搭載機数 72 竣工 1934年



と娘南安 て似真手と顔笑を切親  
士勇傷戦がわ



兵隊さんまで一役買つて、身振り手振りで佛印を語り、日本を語る  
 ↑お手傳ひするモンティジュさん  
 ◁ 爽やかな日も近い兵隊さんと朗らかに語る

傷病兵の看護に深くましいほど真剣な奉仕を捧げてゐる現地病院の看護婦さんへ、私達もお手傳ひさせると、このほど陸軍〇〇病院へ約十名の安南娘が、兵隊さんの身の廻りの世話、水枕の取替へなど、日本人看護婦さんの指導の下に甲斐々々しく働いてゐます。いまのところ仕事の能率は五人かゝつても日本人の看護婦さん一人に及びませんが、やがては仕事もおぼえませう。手慣れよろしく、「かうしてくれ」「あゝしなさい」と意思を傳へる兵隊さんや看護婦さんの無言をくみとる動もよく、院内のあちこちににぎやかな風景が散見されます。



◁ 水は細かく割りませう— アンナン娘はうなづき、せつせと働く



◁ 水枕の取替へなどはアンナン娘の愛持ちです



◁ 言葉が通じうるうれしき。勞はる者、勞はれる者に溜かい気分が流れる



在朝日 大京 深尾陣特温泉

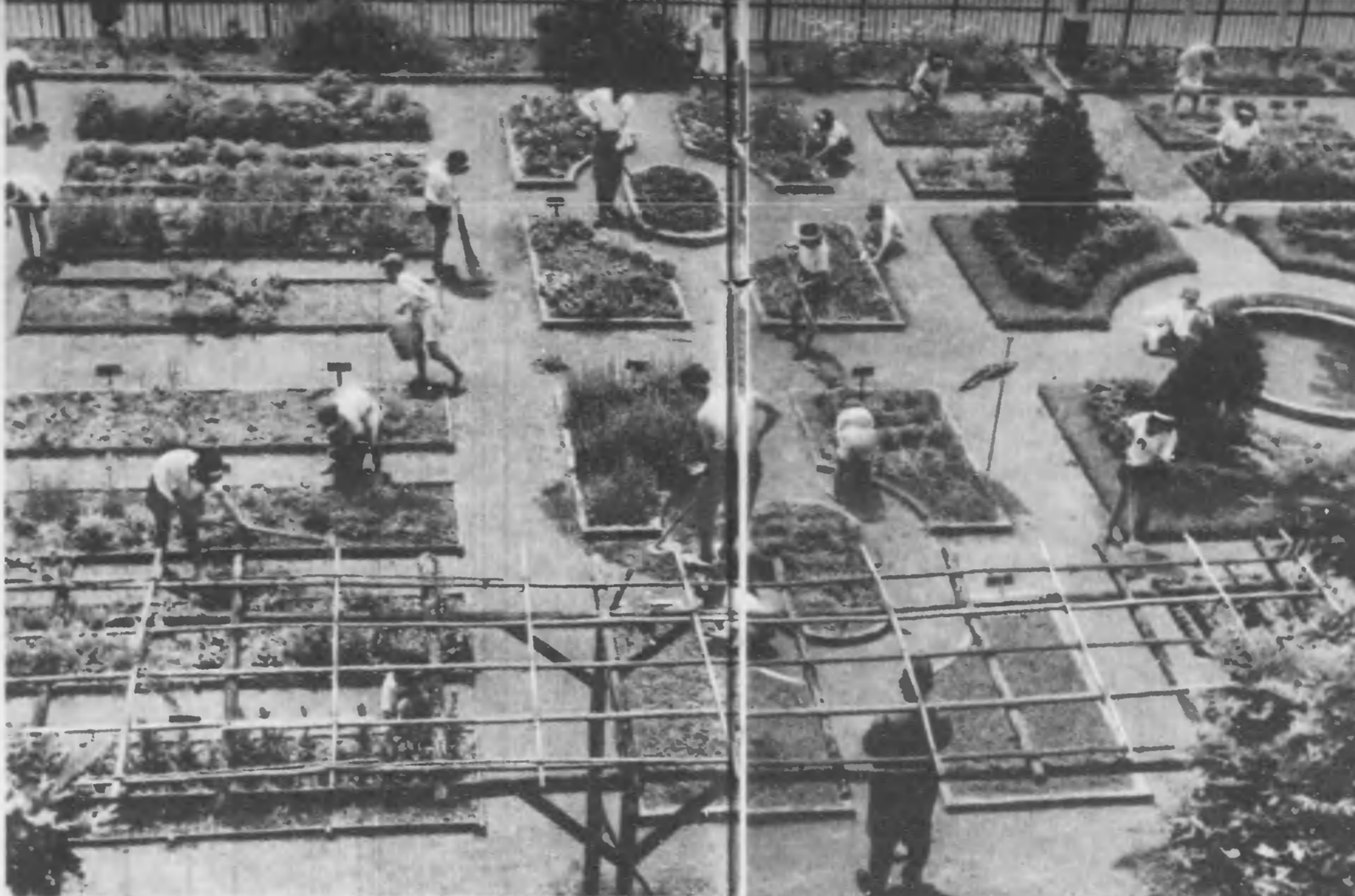
# 真心咲き匂ふ慰霊花壇



教ひの心で挿いた一粒の種が幾日か経つてこんなに愛くるしい花が咲きました

皇軍将兵が愛國の一念、盡忠の一心、内苦  
 缺乏に堪へ、砲彈雨をものともせず第一線に  
 活躍し、幾多の輝かしい勲功を積んで戦場の華  
 と散つた英雄はどの輝かしい勲功を積んで戦場の華  
 ちがこの大戦争の真最中にも拘はらず、上にも  
 かくにも安らかに日々を暮してゆけるのは、全  
 くこれら勇士の方々のお蔭ですが、これに思ふ  
 につけ、英雄に對し朝な夕なにかの感謝と  
 慰敬の誠をつくすことは、私たちの當然のつと  
 めでなければなりません

大阪市住吉國民學校では、さういふ氣持か  
 四年前の支那事變一周年記念日として、校庭  
 にさ、やかなから花壇を設け、その名もゆかし  
 い『慰霊花壇』と名づけて、少國民たちが四年  
 さまんの草花を栽培してゐます。そして住吉  
 校下の英雄の命日や七月七日の記念日には、  
 齊に忠魂の家を訪れて、丹精こめて作つた草花  
 慰霊の道場に捧げる可憐な心の草花、これはやがて  
 伸びに伸びて、うまし大東亞に咲き薫ることせう



今日は片岡さんの命日です。片岡の花束を慰霊に挿けて心から一献がた  
 らございましたと申しました。そして、『ついでにも美しく咲け  
 よ、お花たち、兵隊さんのお手柄を忘れずに』といつて語りました



慰霊花壇 大阪市住吉國民學校

## 大阪市住吉國民學校

×を慰前に挿け愛顧を祈つておられますが、郷土の  
 殉國勇士が幼き者たちに種す無言の訓化は測り  
 知れぬ深いものがあります

贈贈の一畫日あたり、所々、この花壇に出来上  
 る時、先生が『おひんがある人は時々来てト  
 さい。』とおっしゃいましたので、私は二本も三本  
 きました。今、はげしいとやよもや色々美しい花  
 がさきみだれてゐます。このお花は戦死なされた兵  
 隊さんにあげるのです。毎日高等科の人が草取りを  
 したり、水まきをしたりして手  
 入れをしてゐます

私は愛からこの美しいお花壇を  
 見ながら、いつも兵隊さんの事  
 を想へてゐます

これは二年生女生徒半田さ  
 んの感想文の二節ですが、清  
 純な真心に通ふ今は亡きま  
 らをの姿が、まぎ／＼と日に  
 見えるやうではありませんか  
 このやうな可憐な慰敬を受  
 けられる遺族の喜びは、た  
 とへやうもありません。住吉  
 校に寄せられた遺族の方の歡  
 ある文の中に、『戦死者の母  
 より』として

戦ひの陣にて散りし吾子へ遺き  
 し日々お供へ下さる花壇の御片  
 綱を感謝し拙きもの乍ら言葉  
 に代へました

英雄に花挿げはそと幼子の真心こめし涙を簪し  
 遺きし日に色とり／＼の花束にまこと手向ける姿や  
 さしや

といふ、わが子を挿けて心あぐまで安らかな母  
 の三十一文字を讀むことができませんが、このや  
 うなお母さんといひ、切々勇士を想ふ子供たち  
 といひ、こゝにこそ戦ひ續けていよ／＼強まし  
 しい日本の眞の姿があるのでせう

撮影 中藤 敦

○「花壇で買へばものと珍しい立派な花があります。しかし英雄はたと  
 へ形や美しさが劣つてゐても、私達が真心こめて挿けるこの花壇の花  
 の方をきつと喜んでお受け下さるでせう」(二年生女生徒の感想文から)



片岡正三



# 大東亞戰爭國債

一枚勝  
一枚為  
一枚為  
一枚為

郵便高券出 自六月二十二日 至七月三日 大信省 省

(郵便額1-A4標準定額はさ)大の券本)

東京新聞社 昭和十七年六月二十二日発行 毎週一刷大信省発行 第 百 四 十 四 號

内閣印刷局印刷發行